

平成28年度事業報告書

平成28年4月 1日から
平成29年3月31日まで

iichiko 総合文化センターと平成27年4月に開館した県立美術館の事業実施や管理業務において両施設を連携し、スケールメリットを活かした効果的、効率的な運営を行なうとともに、利用者のための円滑な施設運営と良質なサービスの安定的な提供に努めた。

また、iichiko 総合文化センターと県立美術館が大分県における芸術文化の拠点として、「出会いと融合、そしてネットワーク」をキーワードとした、芸術文化の融合による新たな価値の創造に取り組むとともに、地域における課題に対して芸術文化の分野から解決に向けてアプローチした。

なお、平成28年4月に発生した熊本を中心とした大規模な地震により、iichiko 総合文化センター及び大分県立美術館の事業運営において、一部影響が生じた。

1-1 管理業務の実施状況に関する事項【共通事項】

(1) 施設の利用、維持管理に関する業務

- 第三者委託業務について、スケールメリットを活かすため、一部の業務について総合文化センターと美術館を一体的に管理できるように同じ業者に委託した。
- センターホール入場口前への美術館専用チラシスタンドの設置に加え、美術館ではセンターホール事業のチラシを設置したほか、美術館連絡通路に展示ポスターを設置した。
- 美術館で開催された企画展の前売券販売を集客・連携の一環として iichiko 総合文化センターインフォメーションで実施し、両施設に足を運んでもらえるような情報提供に取り組んだ。
- iichiko 総合文化センターで定期的に美術館への誘導を館内放送し、互いの施設の利用促進を図った。
- 両施設の駐車場については、片方が満車になったときの誘導を徹底し、効率的運営に努めた。
- 防災意識の醸成及び迅速な初動体制確保を目的に、地震・火災を想定した防災訓練を iichiko 総合文化センターは2回（7月、12月）、県立美術館は1回（7月）実施した。7月に実施した訓練は共同訓練とし、両施設で同時に災害が起きることを想定のうえ、それぞれの施設の職員が連携して避難・消火活動等に取り組んだ。

(2) 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

- 財団全体で、事業を跨いだ共同広告やプレスリリースなど効率的、効果的な広報に努めた。

- 財団機関誌により、県立美術館や iichiko 総合文化センターのイベント情報を中心に幅広い情報を発信した。
- 月間イベントカレンダー、ホームページ、メールマガジン、J R 大分駅デジタルサイネージ、Facebook、Twitter 等により芸術文化に関する情報を発信した。美術館の Facebook では、6, 542 件を超える「いいね!」、Twitter では、9, 914 件以上のフォロワーを獲得し、きめ細かな情報発信を行った。
- 県内メディアや実績のある芸術文化団体が主催する質の高い公演について、主催公演と同様に情報提供を行った。
- 美術館展覧会や開催行事が一覧できるミュージアムカレンダーをポスター形式で掲出できるよう作成し、館内や近隣施設、県庁等に掲示した。
- 美術館展覧会の内覧会やメール等により情報提供をマスコミに対して継続的に行ったほか、テレビ・ラジオ・雑誌等への対応により PR を図った。
- 県立美術館 1 周年記念行事として、ガラス水平折戸の開放やオープンカフェを設置して開かれた美術館としての PR を行った。
- 大分県立美術館の通算入館者数 100 万人突破の記念セレモニーや 100 万人目の入館者に記念品を贈呈するなど話題づくりに努め、マスコミ報道による美術館情報の発信を促した。

1-2 管理業務の実施状況に関する事項【総合文化センター】

(1) 施設の利用及び利用者の便宜供与に関する業務

- 施設の利用手続きについては円滑に利用者と調整し、クレームやトラブルといった事態は認められなかった。
- 熊本地震の影響により、両ホール合わせて 7 件の利用延期、7 件の利用中止があった。また、会議室についても 1 件の延期と 6 件の利用中止、練習室は 9 件の利用延期があった。(キャンセルの直接の影響額 約 370 万円)
- 安全対策を徹底した結果、盗難、事故などの事例は発生しなかった。
- iichiko グランシアタをはじめ、各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行い(平成 28 年度実績: 7 件)、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。
- 利用開始時間(9 時)の事前延長、利用終了時間(22 時)の事後延長を合わせて 48 回受け入れ、深夜に及ぶ公演、早朝から準備が必要な大規模大会等に対応し、施設利用者の利便性を一層高めた。
- 利用料金の収受において、問題となる事例はなかった。
- 福岡を拠点とするコンサートプロモーターや医学学会の大手プロモーターを訪問し、スケジュール確認や利用促進活動、施設案内等を含めた営業活動を行なった。

(2) ネーミングライツの運用

- 三和酒類(株)とパートナーシップ業務実施契約を締結し、次の業務を実施した。
 - ・パートナーシップ冠事業又は特別協賛の表記

- ・三和酒類(株)に対する冠事業チケットの提供
- ・公演のチラシ等における「iichiko」の表記
- ・ホール利用者に対する iichiko オリジナルグッズの提供の代行
- ・両ホールにおける iichiko オリジナルグッズの展示

(3) サービス改善提案事業に関する業務

○比較的舞台芸術に接する機会の少ない子どもたちが、生の舞台を体験できるように、財団主催7公演に、大分市、別府市以外の遠隔地に居住する小学生（保護者・引率者含む）583人を招待した。

1-3 管理業務の実施状況に関する事項【美術館】

(1) 美術品等の収集、保管、展示及び利用に関する業務

- 美術品等の保管に関しては、展示及び保存の環境を適正に維持するため、収蔵庫及び展示室等の日常的な空調管理を行うとともに、常時データを記録した。
- 美術品等の管理に当たっては、機会ある毎に収蔵庫内の作品整理に努めるとともに、展示室では学芸員による作品の目視点検を日常的に実施した。また地震発生等の非常時には、速やかに展示室、収蔵庫等で作品の状態チェックを行った。
- 二ヶ月を目処に年間6期にわたってコレクション展を開催し、近現代日本画、近世美術、工芸、洋画、彫刻などのコーナー毎に、大分の美術を中心にした作品592点を紹介した。展示にあたっては、季節感のある会場になるようテーマを設けて作品選定に配慮したほか、近世美術や工芸のうち、脆弱な素材のものや、保管上注意を要する作品については、会期中、展示替えを行った。
- 「大分の先人たちの知性と感性に学ぶ」をテーマに「おおいた温故知新2016」のコーナー展示をコレクション展示室内で実施し、コレクション展Ⅲで「宇治山哲平」、コレクション展Ⅳで「滝廉太郎」、コレクション展Ⅵでは「廣池千九郎」を取り上げた。
- 28年度大分県立美術館美術資料評価委員会に諮る美術資料等の借用、資料作成などを継続するとともに、委員会開催に当たっては当該美術資料の説明等を行った。
- 東京文化財研究所にガラス水平折り戸開閉時の空気環境データを報告し、今後の運用について協議を継続した。

(2) 美術品等の調査及び研究に関する業務

- 図書及び作家資料等の整理を継続的に行った。
- 収集対象作家及び県関係作家とその作品について、情報収集に努めるとともに機会ある毎に調査を継続した。
- 自主企画事業「シアター・イン・ミュージアム」、「生への言祝ぎ」、「オランダのモダン・デザイン」のリーフレット、カタログ等の編集を行ったほか、「片岡辰市コレクション」の目録を作成した。

- 「おおいた温故知新2016」のリーフレットを編集、作成した。
- 「2015年度年報」及び「紀要第1号」の編集を行った。

(3) 美術に関する講演会、講座等の開催等、教育普及に関する業務

- 毎週金曜日は夜間開館の時間帯を利用して中学生から一般を対象にワークショップやレクチャーを行う「夜のおとなの金曜講座」、土曜日は子どもから大人まで年齢に応じたワークショップや鑑賞を行う「みんなの土曜アトリエ」、日曜日は手仕事を通じて創作を楽しむ「アトリエミュージアム」を開催し、幼児から一般鑑賞者にいたるまで美術に気軽に親しむ機会を提供した。
- 定期的に OPAM サポーターを対象に、コレクションや美術館業務に関する研修会を開催した。

2-1 自主事業の実施状況に関する事項【芸術文化ゾーン】

(1) 芸術文化の拠点づくり事業

- 近隣商店街役員等をメンバーとする大分県芸術文化ゾーン創造プロジェクト実行委員会を4回開催し、事業実施方針や内容等の協議及び実施体制等の情報共有を図った。
- 芸術文化ゾーン創造プロジェクトによる商店街との連携の一環として商店街等でのポスターの掲示、チラシの配布等の広報活動に努めた。
- 美術館開館一周年に合わせて、商店街・西新町天満社のお祭り文化を活用した地域の活力づくりに取り組む「府内丑舞会」と連携し、美術館を出発地として商店街を練り歩き、府内丑舞を初披露した。
- 8月6・7日に、「Tanavata Starlight Express 2016」と題して、県立美術館と iichiko 総合文化センターを核とした「芸術文化の拠点」から、大分市の七夕祭りと連携し、美術館に iichiko 総合文化センター、国際交流プラザの情報発信を行い、アート、パフォーマンス、文化等が融合した事業を実施した。また、9日には、県立美術館において、九州国立博物館館長の講演会を実施した。
- 12月17・18日及び23～25日の間、「Heart of Christmas! 2016」と題して、iichiko 総合文化センター及び県立美術館を核とした「芸術文化の拠点」から、ネットワークづくりと賑わいづくりのため、商店街等と一体となって、アート、パフォーマンス等が融合した事業を実施した。
- 芸術文化短期大学との連絡会議を開催し、27年度の連携事業の状況や28年度の事業計画などについて、報告・協議を行った。

(2) 地域連携・ネットワークづくり事業

- 大分県公立文化施設協議会を開催し、27年度事業報告・決算や28年度事業計画・予算等を審議するとともに、共同広報・共同研修等の連携事業の実施内容及び状況について報告・協議を行った。また、職員のスキルアップを図るための防

災に関する研修会を2回開催した。

- 大分県公立文化施設協議会の会長館として、各施設の主催事業を取りまとめ（ホール・ナビ）、財団ホームページや新聞広告等を通じて県内外に情報発信を行った。
- より多くの県民が本物の舞台芸術に気軽に触れる機会を増やし、県内における新たな音楽ファンを掘り起こすなどすそ野の拡大を図るとともに、文化ホールスタッフの公演開催に関するノウハウを共有するため、中津文化会館との共同企画としてコンサートを開催した。
- 県立芸術文化短期大学とのネットワーク事業の一環として、7月にサービスラーニングの学生7名に対して、九州交響楽団大分公演の間、iichiko グランシアタでレセプションの実践指導を行った。また、9月にはインターンシップの学生5名を受け入れ、セビリアの理髪師での若者の集客方策の検討や美術館広報等の研修を行った。
- 2月に iichiko 総合文化センターが実施するレセプション研修会に大分県公立文化施設協議会加盟館職員が参加し、文化ホール従事スタッフとしての接客技術の向上を図った。
- 8月に、県と共同で実施したオートポリス復興支援イベントに合わせて、商店街や関係団体等で組織した「オートポリス復興支援・大分市まちなか賑わい創出イベント実行委員会」の主催により、県立美術館、竹町通商店街及び中央町商店街を会場としたトークイベントや車両展示などのイベントを実施した。
- 当財団主導で、大分市美術館、ホルトホール大分、iichiko 総合文化センター、県立美術館の共同広報コーナーを各施設に設置し、共同広報に努めた。
- 県内百貨店と連携し、百貨店会員へのDMに美術館・センターのイベントを掲載したチラシを同封するとともに、美術館等で使用できるクーポン券を満会記念品の1つとする取組を行った。
- 大分県医師会や大分県看護協会等と協定を締結し、年間を通じた機関誌での情報発信を行った。
- 大分市観光課などとの連携により、韓国人やタイ人ブロガーを招聘し、海外からの観光客に向けた情報発信に努めた。
- 別府インターナショナルプラザ（別府市外国人観光案内所）などが発行した外国人向け観光ガイドブックに、美術館情報を掲載し外国人観光客向けの情報発信に努めた。
- 公募により選定した5組のアーティストに対して、必要な研修を行った上で、希望のあった学校・施設等に派遣して17回のコンサートを行った。
- 9月6日から11日まで、日田市の複合文化施設「AOSE」を会場に「所蔵作品巡回展」を、11月21日には津久見市立津久見第一中学校で「スクール・ミュージアム」を開催し、当館コレクションの地域での鑑賞機会を提供するとともに、中学生を対象にした鑑賞授業を実施した。
- 大分大学教育学部、教育センターの依頼を受けて、教員のステップアップ研修を実施したほか、日田、中津、別府の教育事務所で教員向けワークショップ等を実

施した。

- 職業科高校教諭を対象にしたセミナーを開催した。
- 七夕スターライトエキスポ関連事業として、ワークショップ「アトリうむ遊園地」を iichiko アトリウムプラザで開催した。
- 学校連携事業として県内各地の小中学校等に出向いてのワークショップ開催や支援学校の生徒を美術館に招いての鑑賞会、学校の先生のためのワークショップ等を実施した。
- 美術館教育普及のアウトリーチ活動を県内幼稚園、小学校、中学校等で開催した。
- 美術に関する興味、関心をさらに高めるため、県内外の講師を招いて「“みる”をめぐる七つのお話」と題した連続講座を実施した。
- 国際七夕フェスタ（大分市）・ワールドフェスタ（日田市）に JICA 大分・大学コンソーシアムと連携して共催・参加し、在住外国人による各国の民族衣装・民族音楽によるパフォーマンス・パレードなどを行い、留学生と県民の交流を促進した。

2-2 自主事業の実施状況に関する事項【総合文化センター】

(1) 鑑賞系事業

オペラ・バレエ、オーケストラ・室内楽、ミュージカル・演劇、歌舞伎・文楽等の伝統芸能を柱とし、年間を通じて、幅広いジャンルに質の高い舞台公演を財団の企画により実施している。特に28年度は、オペラ公演に重点を置き、次代を担う青少年の情操を育むために国内最高水準のオペラをオーケストラ付きで無料鑑賞教室『セビリアの理髪師』を実施したほか、愛知県芸術劇場・神奈川県立劇場等を連携協力者として迎え、勅使河原三郎の斬新な演出でオペラ『魔笛』を共同制作した。この他、共催事業として、『ラ・ボエーム』、『こうもり』も上演し、計4本のオペラ公演となった。

①7月30日 九州交響楽団 大分公演

九州交響楽団の定期公演をそのまま大分に持ち込んでのコンサート。ドイツの劇場での指揮者・音楽監督を長く務める上岡敏之を指揮者に迎え、バッハ、モーツァルト、ブラームスを『ゲルマン音楽の世界』と題し演奏。上岡のタクトに導かれたオーケストラの響きに、会場は酔いしれ、聴衆の喝采を浴びた。

入場者：825人

②9月9日 オペラ「セビリアの理髪師」

日生劇場制作（演出：栗国淳／指揮：園田隆一郎 九州交響楽団）

日生劇場制作のオペラ「セビリアの理髪師」をニッセイ文化振興財団の援助を受け、地元中高校生を招待して上演した。オペラ初体験の生徒が多く、マナーの徹底等心配したが、事前にDVD等で学習してもらい、当日は良好に鑑賞していただき、コミカルな部分では大いに盛り上がっていた。後日の感想文でも、歌手の歌声や大がかりな舞台装置などに感動したなど記載されていた。なお、生徒の多くが自転車で来館したため、特別に駐輪場を設定するなど注意を払ったが、大き

な混乱はなかった。 入場者：1, 700人

③10月12日 松竹大歌舞伎 「獨道中五十三次」

(主演：市川猿之助、坂東巳之助)

毎年根強い人気のある歌舞伎公演を昼夜2回行い、猿之助、巳之助ほか、実力のある出演者が、宙乗り、早変わりと見せ場の多い演目で、昼夜ともほぼ満席の状態であった。期待以上の充実した内容に、観客からの評判も高く、初めて歌舞伎を見た小学生からは「おもしろかった」との意見があった。また、随所に大分関係の台詞が取り入れられ、観客が歓声をあげる場面もあった。

入場者：(昼) 1, 162人、(夜) 1, 034人 計2, 196人

④11月19日 サティをめぐる音楽と絵画

(主演：福間洸太郎(ピアニスト)、加藤康彦美術館副館長)

美術館との連携企画で、今年生誕150年を迎えるエリック・サティに焦点を当て、彼の作品をピアノで楽しんでいただくと共に、サティの生きた時代にパリで制作された絵画も同時に楽しんでいただく企画であった。まず、加藤康彦美術館副館長からシャガールなど3点の絵画を掲示し、講話を行った。その後、福間洸太郎氏のピアノ演奏で、サティ等の楽曲に加え、シャンソンの名曲も奏でられ、洒落た趣のコンサートとなり、観客の多くから支持された。また、商店街ともタイアップし、チケット半券で割引サービスが受けられる取組を行い、商店街・観客共に評判であった。連携企画として取り組んだが、入場者は想定を下回った。

入場者：344人

⑤1月18日 ベートーベン 弦楽四重奏全曲演奏会 第1夜

(ウェールズ弦楽四重奏団)

ベートーベンの作曲した16曲の弦楽四重奏曲を5年間かけて全曲演奏する企画で、第1夜として第2、4、12番の3曲を演奏した。演奏は、若手の注目株で結成したウェールズ弦楽四重奏団。メンバーは、それぞれオーケストラの首席奏者等として活躍しながら、弦楽四重奏団としても10年のキャリアを持つ。四重奏は、各人の技量が必要であると共に、4人が複層的に絡み合うアンサンブルが魅力。観客は幾分少なかったが、充実した演奏内容に満足したとの感想を多くいただいた。

入場者：274人

⑥2月6日 青島広志のおしゃべりオペラティックコンサート〈大分会場〉

2月7日 同コンサート〈中津会場〉

オペラ「魔笛」公演の導入としてのレクチャー事業。青島広志氏の軽妙なおしゃべりとピアノに、3人の歌手が加わり、オペラの筋書きに沿って、注目のアリアを聴いていただく。青島氏のウィットに富んだ解説がわかりやすいと評判であり、今回は聴衆の皆さんと一緒に歌う場面もあり、会場が盛り上がった。今年も、大

分と中津の2会場での公演となった。

入場者：(大分) 444人、(中津) 640人

⑦ 3月11日オペラ「魔笛」 W.A.モーツァルト作曲

今年度最大の事業として、神奈川県民ホール、東京二期会、神奈川フルハーモニー管弦楽団との共同制作公演。演出・装置・照明・衣装を舞踏家、現代美術作家である勅使河原三郎が努め、舞台上は真っ暗な背景に、10の大中小のリングが浮かび、角度・向きを変え照明を浴びることで様々なシーンを表現する独創的な演出であった。出演は、東京二期会の歌唱力・演技力ともに優れた実力派歌手陣が努め、加えて東京バレエ団の精鋭ダンサーによる身体表現が華を添えた。日本語ナレーションにより進行したことも、分かりやすいと評判であった。主役級のパミーナ役として大分県出身の嘉目真木子が表情豊かに歌声を披露し、指揮者には新進気鋭の川瀬賢太郎が手兵の神奈川フィルを率いての演奏で、若手の活躍も大いに発揮され、見所の多い素晴らしいオペラ公演となった。

入場者：1,042人

⑧ 3月20日 OITA BROADWAY MUSICAL THEATER

出演は、公募による小学校1年生から70歳までの一般参加者約80人で、約7か月間、夢の舞台を目標に、歌、ダンス、演技の稽古を積み重ねたものであった。ミュージカルの名曲に乗せて、早変わりして次から次へと舞台転換しながら、最高のパフォーマンスを見せてくれ、会場も盛り上がった。演奏面でも、地元演奏者10人がオーケストラを組み、生演奏でステージに躍動感、迫力を加えた。

入場者：640人 ※3/19のGPに、200人余り入場

⑨ 3月26日 iichiko グランシアタ ジュニアオーケストラ第8回定期演奏会

ホール付きのオーケストラとして平成21年に結成され、今回8回目の演奏会を迎えた。小学校3年生から22歳までの団員76人が、1年間かかって創り上げた成果を披露した。喜歌劇「こうもり」序曲(ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲)から始まり、交響曲第100番「軍隊」(ハイドン作曲)、最後に団員のナレーション付きで音楽物語「ペール・ギュント」が演奏された。特に「ペール・ギュント」は、物語の展開と音楽の関係性がわかりやすかったと評価が高かった。加えて、開演前にアカデミッククラスの子どもたちが、ロビーコンサートを開催し、日ごろの練習の成果を披露し、多くの拍手をいただいた。入場者：973人

⑩-1 5月4日 ワンコインリレーコンサート～Vol.1 ピアノ

ピアニストの宮谷理香によるコンサートで、得意とするリスト、ショパンの曲に加え、我が国初のピアノ曲である瀧廉太郎作曲のメヌエットを演奏。軽快なトークとあいまって、満席の会場は感動と笑顔に満ちた暖かいものとなった。

入場者581人

- ⑩-2 6月9日 ワンコインリレーコンサート～Vol.2 バンドネオン
バンドネオンの世界的第一人者であるネストル・マルコーニと新進気鋭の三浦一馬によるコンサートで、タンゴの名曲を演奏。ベテランと若手の絶妙な師弟が奏でるバンドネオンの独特の音色に会場は酔いしれた。入場者：633人
- ⑩-3 10月6日 ワンコインリレーコンサート～Vol.3 ギター
ギタリスト鈴木大介の演奏で映画音楽を中心としたコンサート。トークも交えながら映画のワンシーンが思い起こされる演奏に聴衆は酔いしれた。
入場者：479人
- ⑩-4 12月19日 ワンコインリレーコンサート Vol.4 ソプラノ
大分出身のソプラノ歌手 嘉目真木子。東京二期会でオペラ歌手として活躍中で、今年3月の共同制作オペラ「魔笛」でも女王の娘パミーナ役で出演している。オペラのアリアを中心に、日本歌曲も交え、素晴らしい歌声を披露いただいた。また自身の歌手生活を振り返る構成で、大分での思い出も語りながら、大変アットホームな雰囲気にも包まれたコンサートであった。ピアノは武田朋子。
入場者：359人
- ⑩-5 2月15日 ワンコインリレーコンサート Vol.5 ハープ
ハープ：朝永侑子、チェロ：新倉瞳のデュオコンサートであったが、珍しいハープとチェロの組み合わせに、人気が高かった。曲間にトークをはさみ、ハープの仕組みを解説するなど、なごやかな雰囲気の中で、コンサートが進んだ。それぞれの楽器の音色を楽しむ場面もあり、最後は、二人のアンサンブルに引き込まれ、満員の客席からは大きな声援が上がっていた。
入場者：520人
- ⑪ 5月14日 共催事業 アルゲリッチ&レーピン室内楽コンサート
ヴァイオリンのワディム・レーピンを迎え、総監督マルタ・アルゲリッチと共演し、プロコフィエフやベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタを演奏した。
入場者：1,816人
- ⑫ 6月22日 共催事業 オペラ「ラ・ボエーム」
若手オペラ歌手の登竜門である劇場を母体にしたローマ・イタリア歌劇団によるオペラ公演。本場オーケストラの重厚な響きに支えられ、実力のある歌手たちの伸びやかな歌声により、プッチーニの純愛オペラが演じられた。
入場者：700人
- ⑬ 10月1・2日 共催事業 喜歌劇「こうもり」 大分二期会制作
演出：中村敬一／指揮：森口真司 2016 こうもりオーケストラ
今年度の県民芸術祭開幕行事で、大分二期会主催のオペラ公演を共催事業とした。

大分出身者を中心にした配役、オーケストラ演奏も地元で担い、これらをよくまとめ上げて、喜歌劇らしい楽しく親しみやすい舞台を作り上げていた。これに石丸謙二郎さんの軽妙なトークが加わり、聴衆から大きな拍手をいただいた。

入場者：(10/1) 695人、(10/2) 674人 計1,369人

⑭ 12月9日 共催事業 芸短フェスタ 2016 オペラガラコンサート
“ウィーン国立歌劇場元専属歌手を迎えて”

県立芸術文化短期大学の主催で、ウィーン国立歌劇場の専属歌手を努め、二期会で活躍されている二人の歌手、佐々木典子（ソプラノ・東京藝大教授）と甲斐栄次郎（バリトン・東京藝大准教授）を迎え、これに、短大の3人の声楽教員が加わって、オペラの名場面を披露した。2人の抜群の歌唱力に加え、教員3人による舞台シーンの楽しい掛け合いが繰り広げられ、まさしくウィーンの風が感じられるステージとなった。 入場者：361人

(2) 人づくり事業

① iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ育成事業

結成8年目を迎える「iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ」の活動としては、1年間の活動の集大成である定期演奏会に向けて、月2回の練習で地元講師の指導を受け、加えて今年度は九州交響楽団員からのパート別指導も2回受ける機会に恵まれ、更に指揮の梅田先生からは3回に及ぶ特別レッスンもあり、充実した練習指導環境となった。アウトリーチ活動としては、大分銀行主催のウエズディコンサートに出演し多くの人々に演奏を聴いていただくなど活動の幅を広げた。初心者向けの楽器体験やレッスンを行うアカデミッククラスでも受講生が増加し、定期演奏会でのロビーコンサートに取り組むなど活動が広がった。

なお、アウトリーチ活動は以下のとおり。

- ・ 4月2日、九州電力大分支社ロビーで、弦楽器アンサンブルにより実施した。櫛の実青少年少女合唱団と共演した。
- ・ 8月24日、弦楽器アンサンブルが大分銀行主催のウエズディコンサートに出演した。特別に大分銀行本店のホールで、2回公演し、合計約120人の聴衆に対して、アイネクライネ・ナハト・ムジークやおもちゃの交響曲などを演奏し、大きな拍手をいただいた。
- ・ 1月7日、臼杵東中学校吹奏楽部の指導に、管打楽器メンバーが学校訪問し、中学生に演奏指導、またクラリネットアンサンブルの演奏を披露した。
- ・ 2月18日、弦楽器アンサンブルにより、レンブラント・ホテルで、南大分ライオンズクラブの50周年式典で演奏した。パッヘルベルのカノンでは、川瀬先生のソロとジュニアとの共演を楽しんでいただき、おもちゃの交響曲では、子どもたちの担当するおもちゃの響きに、大きな拍手をいただいた。

② ミュージカル体験ワークショップ

7年目を迎える本年度も、7月27日から31日までの5日間、ブロードウェイ

ミュージカルの曲を歌って踊る体験ワークショップに、大勢の参加者が集った。8月6日に中央通りで、7日にアトリウムで発表会を行い、保護者や友人などが多数集まり、大きに賑わった。

(参加人数 小学生92人、中高大生35人、一般22人)

③ OITA BROADWAY MUSICAL THEATER

ブロードウェイミュージカルの名シーンを生演奏にのって歌い踊るレビュー公演を本年度初めて企画。公募した小学校1年生から70歳までの一般参加者約80人が、約7か月間、稽古を積み重ねた。舞台は、日本ミュージカル界で活躍中の野口アキラ氏の演出・振付に、若林裕治氏の音楽、岡崎亮子氏の歌唱指導という一流スタッフがリードし、これに地元の優秀なスタッフが加わり指導した。

④ emo スタッフ活動

財団が主催・共催する公演等に、公募ボランティア「emo スタッフ」32人がホールレセプションリストとして活動した。また、他館のレセプション活動を視察したほか、学生にレセプション活動を指導するなど、多面的なスキルアップを図った。特に、2月10日には中山館長によるオペラレクチャーを、同月16日には角屋里子先生による実践的なブラッシュアップ研修を受講した。

(3) 普及系事業

芸術文化の普及・拡大を目的として、初心者でも気軽に親しめるように、歌舞伎やオペラのレクチャー、舞台メイクワークショップ、邦楽ワークショップ等を開催した。また、遠隔地に居住するなど日頃クラシック音楽に触れる機会の少ない人に、クラシック音楽の楽しさや生の演奏の迫力を身近に味わってもらうアウトリーチ活動を展開した。

① 9月4日 もっと楽しむための歌舞伎レクチャー (午前・午後2回講演)

毎回、人気の講座である。講師の葛西聖司氏の映像を交えたわかりやすく、軽妙な語り口、豊富な知識に裏付けられた的確な見所指摘などにより、今回も2回の講座とも満員の盛況であった。また、アンケートでも非常に好評であった。これにより、新たなチケット購入も進み、販売促進にも効果があった。

参加者：計140人

② オペラレクチャー

喫茶 魔法の笛～第1回 10月22日 映像小ホール 参加者：27人

第2回 12月17日 喫茶 茶王 参加者：28人

第3回 2月25日 ナンドホール 参加者：50人

3月11日開催のオペラ「魔笛」に関するレクチャーを、中山欽吾館長を講師に、コーヒー&ケーキをいただきながら、気軽に参加してもらうための取組。中山欽吾館長のスライドを交えた、分かりやすい解説とコーヒー&ケーキを食べながら

の気軽さから、多くの会話が生まれ、オペラに興味湧き本公演が楽しみになったという意見もあった。

③ 2月19日 図書館講座「オペラを楽しもう」

県立図書館と連携して、オペラの啓発講座を職員2人が講師となり、実施した。オペラの基本的知識から、今回上演される「魔笛」のあらすじを人形芝居で見せたり、アリアの楽しみ方まで具体的にビデオも交えながら話を行った。わかりやすかったとの評価が多かった。参加者：50人

④ 3月4日 「魔笛」映画鑑賞会

オペラ「魔笛」関連企画として、映画鑑賞会を企画した。上映作品は、「魔笛」(2006年作品ケネス・ブラナー監督)と「AMADEUS」(1984年作品)を2回ずつ上映した。初回上映時は、ほぼ満席になるほど関心は高く、オペラの筋立てやモーツァルトの制作経緯が理解でき、オペラの鑑賞に役立ったとの評価をいただいた。参加者：102人

⑤ 9月10日 アトリウム遊園地

「ARTS(音楽と美術)が生み出すキッズパーク」を合い言葉に、アトリウムを会場として実施したところ、約2,000人の親子連れが集まる大盛況となった。メインステージでは、クラシックコンサートやミュージカル体験、フラフープ演技などが実施され、体験メニュー時には長い行列が発生するほど人気となった。手作りおもちゃコーナーや県産材を活用した積み木(木育)コーナー、美術館企画の動物ごっこなりきり隊などにも、多くの人に参加した。

⑥ 9月18日 舞台メイク・ワークショップ(歌舞伎編) 参加者：47人

9月26日 同 (宝塚編) 参加者：72人

前者は「隈取(くまどり)」をはじめとする歌舞伎の特徴的な化粧法について松竹より歌舞伎俳優を迎え、後者は宝塚をはじめとする舞台で映える特徴的な化粧法について元宝塚歌劇女優である華月由舞さんを迎え、いずれも実演に即して解説しながら実施した。両日とも、日頃見ることのない化粧を間近に体験できたと、非常に好評であった。

⑦ 邦楽のススメ 日本舞踊

1月9日 <杵築会場> 参加者：52人

1月9日 <大分会場> 参加者：99人

1月10日 <国東中学校会場> 参加者：中学2年生 約60人

花柳基氏を中心に4人の舞踏家を招いて、舞踊の歴史や振りの解説を弟子の実演を交えながら行った後、体験として基本的な所作から長唄「潮来出島」の一部を踊れるまで指導を行った。最後は、基氏と静久郎氏による「連獅子」を披露し、大きな拍手があった。参加者も体験できたことと基氏の素晴らしい舞踊

を間近で目にすることができ、参加者の評価も高かった。

⑧アウトリーチ・コンサート『しあわせストーリー』

公募により選定した5組のアーティストに対して、必要な研修を行った上で、希望のあった学校・施設等に派遣して17回のコンサートを行った。

- ① 6月28日 竹田市／医療法人雄仁会 加藤病院
- ② 7月7日 杵築市／特別養護老人ホーム 菩提樹
- ③ 8月6日 大分市／高田公民館 東陽中学校の生徒と地元住民
- ④ 8月19日 大分市／デイサービスセンター「天神ヴィラ」
- ⑤ 9月16日 大分市／南部公民館 幼児とそのお母さんという親子を対象
- ⑥ 9月23日 中津市／小楠コミュニティセンター 幼児とそのお母さん
- ⑦ 9月26日 杵築市山香町／高齢者施設 太陽の家 広寿苑
- ⑧ 10月5日 佐伯市／大入島小学校
- ⑨ 10月21日 日田市／日隈小学校 2公演
- ⑩ 10月31日 由布市挾間町／特別養護老人ホーム「若葉苑」
- ⑪ 11月7日 大分市／ケアマンションはなぞの
- ⑫ 11月8日 日田市／小野小学校
- ⑬ 12月9日 国東市／武蔵中学校
- ⑭ 12月13日 由布市庄内町／養護老人ホーム寿楽苑
- ⑮ 1月18日 宇佐市／軽費老人ホーム「ケアハウス光」
- ⑯ 1月20日 国東市／国東小学校
- ⑰ 3月4日 日田市／天瀬公民館

また、次年度に向けて、新たな登録アーティストの募集を行い、その応募者に対して1月28、29日にオーディションを実施し、審査の結果、4組のアーティストが合格した。このアーティストに対して、2月8日に一次研修（座学中心）、同月19、20日に二次研修（実技中心）を行った。

(4) 文化事業を担う人づくり

文化事業担当職員の研修の充実を図るとともに、公演時のアンケート調査等を活用して県民ニーズの把握に努め、自己評価を行うことにより、サービスの一層の向上と業務改善、職員の意識改革を図った。

2-3 自主事業の実施状況に関する事項【美術館】

(1) 質の高い魅力的な企画展の開催

○4月8日から5月8日までの会期で、「OPAM ×能勢伊勢雄 シアター・イン・ミュージアム」を開催（入場者 2,465 人）。能勢伊勢雄氏を監修者に迎え、能勢氏の作品展示の他、映像表現や前衛芸術など、異なるジャンルの表現が共存する空間を構成した。

- 5月18日から6月5日までの会期で「コレクションに見る 日展に集う画家たち」を開催（入場者 3,991 人）。日本画の岩澤重夫、正井和行、洋画の江藤純平、江藤哲、中山忠彦、陶芸の河合誓徳ら、日展の中枢を担った実力派の作家たちの作品 36 点を一堂に紹介した。
- 6月11日から7月18日までの会期で、「生への言祝ぎ—インスタレーション12の柱+出会いのパフォーマンス—」を開催（入場者 4,077 人）。日本の現代美術家十二人による「言祝ぎ」をテーマとした作品と、海外から招聘した四人の作家が、大分という彼らにとって未知の土地に住む人々や風土に「出会い」、体感し、感じ得たモノを表した映像やパフォーマンスを同じ空間に展開させることで、創造的「出会い」を試み、鑑賞者との新たな「出会い」を創出した。
- 7月29日から9月11日までの会期で「片岡辰市コレクションの精華—竹田と松園、日本美術の雅び—」を開催（入場者 8,197 人）。平成26年度に収蔵した同コレクションの中から、上村松園の幻の名作「月蝕の宵」をはじめ、田能村竹田、頼山陽、浦上玉堂、竹内栖鳳、橋本関雪らによる代表的な秀作54点を紹介した。
- 12月2日から1月22日までの会期で「オランダのモダン・デザイン リートフェルト／ブルーナ／ADO」を開催（入場者 9,522 人）。現代人の思想や生活スタイルに今なお大きな影響を与え続ける20世紀オランダのデザインを、リートフェルトやブルーナ等代表的な作家の作品188点で紹介した。
- 2月10日から3月5日までの会期で「東西風景版画の出会い—ターナーから浮世絵、近代版画までの珠玉—」を開催（入場者 4,168 人）。当館コレクションの中から、代表的な東西の風景版画170点を紹介した。

(2) 館内サービスの充実

- ミュージアムショップではこれまで事業者と企画・開発を行ってきたオリジナル商品の販売、カフェでは各企画展と連携したメニュー提供等を行なった。
- OPAM 1周年記念行事のひとつとして、期間限定で企画展、コレクション展の入場者に駐車券を配布した。
- 情報コーナーでは、美術全般や企画展、大分ゆかりの作家等に関する閲覧用図書の提供等を行なった。
- 1月1日から3日の間、企画展鑑賞者への駐車場利用サービス、着物での来展者への企画展無料対応、三和酒類(株)提供の焼酎無料配布等を行った。
- 来館者に対して、建物やアトリウム展示等を紹介する、OPAM サポーター館内ガイドツアーを原則月曜日と木曜日に実施した。
- 空気環境の安定する、春と秋のシーズンにガラス水平折戸を開放するとともに、オープンカフェ等を実施した。
- 4月29日～3月1日まで JR 西日本が実施するコナンミステリーツアーのチェックポイントを設置した。

3 友の会事業

- iichiko 総合文化センター1階インフォメーション・大分県立美術館1階インフォメーションを窓口として、案内及び入会・更新手続を行った。3月末の会員数は7,611人。

- 有料会員が特典を受けられる「びび SHOP」の加盟依頼を行い、「びび BOOK」を発行した。
- 大分県立美術館企画展内覧会や、ミニコンサート、トークイベント、交流会、意見交換会等、会員向けイベントを、年間23回実施し、参加者の好評を博した。
- 有料会員向けに、財団イベント等の最新情報を2ヶ月に1回程度郵送した。
- 有料会員向けに、会報紙「びび PAPER」を年間4回発行した。
- 会員向けに、月2回メールマガジンを送信し、情報提供を行った。
- 県内企業等を訪問し、会員募集及び継続更新依頼を行った。
- 期限を迎える会員に更新案内を発送し、更新の促進に努めた。

4 国際交流事業

(1) 県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり

①国際交流の場及び情報の提供

「おおいた国際交流プラザ」は県民と在住外国人が交流し情報交換できる場所づくりを目指している。県が開催する人権イベントに参加し、国際化に関する情報の収集・提供を行った。

②多文化共生意識の醸成

国際七夕フェスタ（大分市）・ワールドフェスタ（日田市）に JICA 大分・大学コンソーシアムと連携して共催・参加し、在住外国人による各国の民族衣装・民族音楽によるパフォーマンス・パレードなどを行い、留学生と県民の交流を促進した。

③多文化共生の地域づくり

国際理解講座を開催し、南米・欧州に関する県民の理解を深めた。地域指導者を講師に招いた国際交流研修会で地域の国際交流の先進事例を研修し、多文化共生概念の地域社会への普及に努めた。

(2) 在住外国人の生活支援や県民・在住外国人への情報発信

①在住外国人の生活支援

居住・子育て・離婚・在留資格等について在住外国人を対象とする多言語（英語・タガログ語・中国語）による生活相談を行った。

②コミュニケーション支援

ホームページの運営や機関紙の発行、SNSの活用による情報発信に加え、ボランティアを活用した通訳・翻訳のコーディネートを行うなど、県民と在住外国人相互のコミュニケーションを促進した。

(3) 国際交流に深く関わりのある団体等への支援

①他機関との連携・支援

日本語教室の運営や海外との交流活動を行う団体の事業を支援すると共に在住外国人を支援する各種団体との連携を図った。

②国際人材の育成推進

通訳・翻訳ボランティアに対して観光・生活・災害対応等をテーマにスキルアップ講座を開催した。併せて学生ボランティア44名を養成した。

5 スポーツの振興

(1) 地域のスポーツ振興

①8月23日～31日にかけて、県と共同で日田市内のモータースポーツ施設「オートポリス」復興支援イベントを実施した。また、合わせて27日・28日に、商店街や関係団体等と組織した「オートポリス復興支援・大分市まちなか賑わい創出イベント実行委員会」の主催により、県立美術館、竹町通商店街及び中央町商店街を会場として、トークイベントや車両展示などを実施した。

②12月23日～25日に、ラグビーワールドカップ（RWC）2019大分県推進委員会と連携して、県立美術館でRWC PRパネル展を開催した。また、同時期にiichiko総合文化センターで実施した「HEART of CHRISTMAS! 2016」において、写真パネルと顔出しフォトパネルを展示し、県立美術館でのRWC PRパネル展への誘導を図った。

(2) (株)大分フットボールクラブへの貸付金管理

平成17年9月に大分トリニータを運営する(株)大分フットボールクラブへ貸付けた2億円については、平成25年3月をもって償還が完了した。

また、平成22年11月に融資された2億円についても、平成24年から遅滞なく償還が行われた。毎月の経営状況の報告を受けるなど情報の把握に努めるとともに、県と連携して滞りなく返済されるように貸付金の管理を行った。

6 アーツ・コンソーシアム大分構築計画

大分県、大分県立芸術文化短期大学とともに共同事業体型組織「アーツ・コンソーシアム大分」を設立し、芸術文化振興施策・事業の評価や資金調達、文化プログラムのあり方について調査研究を行うとともに、実際の県内アートプロジェクトの事業評価に協力し、それらの成果を「平成28年度アーツ・コンソーシアム大分構築計画実績報告書」に取りまとめて公表した。

7-1 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項【総合文化センター】

(1) 各施設の利用状況

① iichiko グランシアタ (大ホール)

○平成28年度の利用件数は207件 (前年度の利用件数は215件、過去5年間の平均件数は217件)

○内訳は、音楽139件、舞踊24件、演劇15件、その他(講演・大会)29件

○利用率は87.7% (前年度の利用率は85.7%、2.0ポイントの増)

② iichiko 音の泉ホール (中ホール)

○平成28年度の利用件数は231件 (前年度の利用件数は224件、過去5年間の平均件数は229件)

○内訳は、音楽134件、舞踊25件、演劇17件、その他(講演・大会)55件

○利用率は84.6% (前年度の利用率は85.5%、0.9ポイントの減)

③ iichiko アトリウムプラザ

○平成28年度の利用率は46.8% (前年度の利用率は52.4%、5.6ポイントの減)

④ 会議室

○平成28年度の利用率は51.2% (前年度の利用率は51.9%、0.7ポイントの減)

⑤ iichiko スペース・ビー

○練習室の平成28年度の利用率は94.0% (前年度の利用率は92.6%、1.4ポイントの増)

○県民ギャラリーの平成28年度の利用率は66.1% (前年度の利用率は69.7%、3.6ポイントの減)

○映像小ホールの平成28年度の利用率は43.5% (前年度の利用率は54.8%、11.3ポイントの減)

⑥ 駐車場

○駐車場の平成28年度の入庫台数は214,884台 (前年度の入庫台数は235,592台、20,708台の減)

(2) ホール入場者実績

○平成28年度の iichiko グランシアタ入場者数は171,144人、前年度の入場者数は178,730人 (7,586人の減)

○平成28年度の iichiko 音の泉ホール入場者数は、62,718人、前年度の入場者数は60,982人 (1,736人の増)

○両ホール合わせて233,862人。前年度の入場者数 (239,712人) と

比べ、5, 850人下回った。

(3) 目標指標の達成状況

大分県立総合文化センターの管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間ホール利用率87.0%以上である。例年よりも改修工事期間が減ったことにより利用可能日数が増えた分、営業努力により利用数は増加したが、熊本地震の影響による年度当初の延期や中止が影響し、平成28年度の実績は86.1%と目標にわずかに届かなかった。

7-2 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項【美術館】

(1) 各施設の利用状況

① 展示室 A

○企画展と貸館利用を併せての利用日数は、336日、31催事
(前年度は320日、26催事)。

② 展示室 B

○企画展と貸館利用を併せての利用日数は、288日、25催事
(前年度は329日、7催事)。

③ 研修室

○貸館、教育普及事業を含め利用日数は98日(前年度は147日)

④ アトリエ

○貸館、教育普及事業を含め利用日数は216日(前年度は236日)

⑤ アトリウム

○美術館事業としてマルセル・ワンダースの「ユーラシアン・ガーデン・スピリット」等の美術作品を無料で鑑賞していただけるよう、年間通して展示した。

○入館者の増加を図るため、小沢健二ライブやオートポリス関連展示、日田祇園見送り幕展示などをはじめ、各種ポスター展、写真展など、アトリウムを活用した展示、イベント開催等による賑わいづくりに努め、159日の利用があった。

⑥ 駐車場

○入庫台数は65, 657台(前年度は79, 495台)

(2) 来館者実績

年間来館者数は434, 518人。前年度の入場者数(642, 505人)と比べ、207, 987人下回った。

(3) 目標指標の達成状況

大分県立総合文化センター及び大分県立美術館の管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間来館者数50万人以上に対し、平成28年度の実績は、4月に発生した熊本地震の影響などから65, 482人下回った。

8-1 利用者満足度調査に基づく課題分析の結果、業務改善の実施状況及び自己評価 【総合文化センター】

(1) 利用者満足度調査の実施状況

① 調査の概要

3月に施設利用者666人を対象に利用満足度に関する、一斉アンケートを実施した。(265人回答、回答率39.8%)

② 結果分析

一斉アンケート調査結果の分析は次のとおり。

ア 利用回数

○ほとんどの施設において2回目以上の利用が90%以上となっており、リピーター率が非常に高い。

○今後は、リピーターを確保しながら、新規利用者を獲得することが必要。

イ 利用理由

○これまでの調査と同様に、「立地がよい」、「施設・設備が充実」を選択した利用者が多く、「料金が適正」、「知名度が高い」が続く。

○「立地がよい」は前年度の78.2%から77.0%とほぼ同様に推移している。

○また、「サービスがよい」が前年度の12.0%から14.7%と2.7ポイント増加しており、努力の成果が出ている。

○知名度を理由とした利用は昨年度の26.7%から34.3%と7.6ポイント高くなっており、「立地」「設備」「知名度」「サービス」を評価していた。

ウ 利用料金

○「普通」が53.6%、「少し高い」が31.7%と大半を占める。

○「少し高い」の比率は昨年度調査の35.6%から3.9ポイント減少し、「普通」が2.0ポイント増加している。

エ 職員の対応

○「やや満足」以上が78.1%、「普通」を含めると98.9%と高い評価を受けた。

○「不満」の回答はなく、「やや不満」という回答は3件と昨年度の1件よりも増えたが、今後さらなる自己研鑽や研修によるスキルアップにより全ての方に満足いただける対応を目指す。

オ 利用申請手続き

○「簡単」が23.3%と昨年度の調査からさらに減少し、「面倒」が10.2%と昨年度より増加している。ホール予約が年ごとに競争が激しくなっており、抽選に毎週来館することが面倒だと考える利用者が増加している。引き続き事務改善により可能な限りお客様負担の軽減を図る。

カ 利用満足度

- 「ほぼ満足」が一番多く51.3%、次に「大変満足」が32.1%、「普通」の16.6%を合わせると、初めてお客様満足度100%を達成した。

キ 次回利用

- 「是非使いたい」と「使いたい」の合計が84.5%と次のご利用を希望されるお客様が大半を占めるが、「検討する」という回答も14.7%あり、次回の利用を獲得するためのアプローチが必要である。

(2) 業務改善の実施状況

施設利用者や入場者からの意見、要望に対して、次のとおり業務改善を行った。

- 大規模公演時に満車になると行き場所がない。
 - ・大分県立美術館 OPAM の駐車場へのご案内表示の設置をし、混雑時には誘導を実施している。また、県立美術館と iichiko 総合文化センター共通の駐車場案内チラシを作成した。
- 会議室のプロジェクタが持ち込み機器と合わない。
 - ・最新のPC機器等、多様なご利用に対応できるようにプロジェクターを新しいものに更新した。
- スマホやPCでの通信環境を整えてほしい。
 - ・複数のPCに接続ができるようスイッチングハブを購入すると共に、無線LAN機器を購入し、希望者に貸出しできるようにした。
- 分煙環境を整えてほしい。
 - ・iichiko 音の泉ホール楽屋通路の分煙機を撤去し、1F楽屋入口に集約、地下駐車場エレベータホールの灰皿を撤去した。
- ベーゼンドルファーをもっと活用すべきだ。
 - ・ホールピアノのベーゼンドルファーの試奏会を6回開催し、多くの方に魅力を知っていただく機会を設けた。

(3) 指定管理者としての全体的な自己評価

① 成果指標とその分析

ア 施設利用状況

a 利用件数

- 平成28年度の利用件数は、iichiko グランシアタが207件、iichiko 音の泉ホールが231件。
- 前年度と比較して、iichiko グランシアタの利用件数は減少したものの、iichiko 音の泉ホールは増加した。
- 土・日・祝日の利用は飽和状態であり、予約受込日に希望が重なった場合はできるだけ双方に利用していただけるよう利用調整を行った。

b 利用率

- 平成28年度のiichiko グランシアタ、iichiko 音の泉ホール、両ホール合わせた利用率は累計で86.1%となり、昨年度より0.5ポイント増加したが、目標指標87.0%にはあと一步であった。

○利用率向上に向けた対応策

- ・平日を含み、多くの利用が期待できる、県内主要メディア7社及び県内芸術文化団体6団体に出向き、施設利用促進のための営業活動を行なった。
- ・舞台技術スタッフ、清掃、警備と連携をとりながら休館日の利用（両ホール合わせて7件）を希望するお客様を最大限に受入れ、利用率の向上を図った。
- ・会議室については、類似施設となるホルトホール大分の影響もあり、利用者が減少している。地道な営業活動や接客対応等により、一件でも多くの利用者獲得に努める。

c 入場者数

- 平成28年度における入場者数は、iichiko グランシアタが171,144人と前年度より減少した一方、iichiko 音の泉ホールは62,718人で前年度より増加した。
- 前年度と比較して、両ホール合わせた総入場者数は減少している。ただし、入場者数に関しては経済状況や催事数はもとより、催事内容・規模に起因する要素が大きい。また28年度は熊本地震の影響により、グランシアタで5公演、音の泉ホールで2件の中止、延期になったことが大きく影響した。

d 地下駐車場利用状況

- 熊本地震による公演中止等の影響などで利用台数や収入が伸び悩んだが、練習室利用者延べ1576名に対して駐車料金サービスを継続し、減少傾向であった練習室の利用件数も増えるなど、相乗効果を得られた。平成29年度は当該サービスを拡大していく予定である。

イ 自主文化事業（主催事業）（別紙資料参照）

a チケット売上比率（チケット売上枚数／チケット販売可能枚数）

- チケットの売上比率は、「松竹大歌舞伎」が昼夜平均88.6%で評価A（85%以上）、「ワンコインリレーコンサート」が5回平均77.5%で評価B（85%～75%）となった。他の6公演は評価C（75%以下）にとどまった。
- 娯楽の多様化や厳しい経済情勢の影響等によりチケット販売の低迷は全国的な傾向と言われているが、文化情報として新聞記事にしたり、メディアの共同主催として広告を実施するなどにより、売上向上に成功した試みもあったので、引き続き新たなチケット販売戦略の立案や広報宣伝戦略の練り直し等、集客に向けてより一層努力したい。また、コンサートに関連したレクチャーの実施や関連映画の上映なども、売上向上によい影響を与えており、今後も工夫して対応していきたい。

b 経費の自立度（チケット等売上額／公演総経費）

- 事業効果を高めながら経費節約に努めた結果、「松竹大歌舞伎」が評価A（

70%超)、その他の公演が評価C(50%以下)となった。

○いずれも入場者からは、「素晴らしく内容のある演奏を聴くことができた。」、「同様の公演をまた開催してほしい。」、などの感想が多く届けられており、良質の公演をより多くの県民に鑑賞いただけるよう、PRの媒体や内容をこれまで以上に工夫したい。また、これまで舞台芸術に関心のなかった人たちにも本物の舞台を鑑賞する機会を提供し、ファン層の拡大を図ることにより、質の高い公演を継続できるよう運営に工夫を凝らしたい。

c 当日入場者比率(入場者数/チケット提供枚数)

○当日入場者比率は、わずかに届かなかった2公演を除き、ほとんどの公演が評価A(90%超)となり、購入者の公演への関心の高さをうかがわせた。

○今後もホールの機能を活かした魅力的な公演の開催を工夫すると同時に、より効果的な広報・営業を通じて入場者を増やすよう努力していく。

② 業務の取り組み内容に関する評価

ア 施設及び設備の維持管理及び修繕

○日々状態の変化する施設において、常に職員が高い安全意識を持ち、併せて関係機関との連絡調整を徹底することにより、質の高い施設の管理・運営を行った。

○エレベーターや舞台設備など専門性を有する部分については、業者による定期点検を実施し、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立することができた。

○小規模な修繕については財団で対応していく一方、長期的視点からの大規模改修については県施設整備課と連携しながら計画的に取り組むことができた。

○地下駐車場についても大きなトラブルもなく、入出庫及び駐車管理を円滑に行った。

イ 施設の利用及び利用者の便宜共用

a 施設利用に係る申込受付等の対応

○施設利用の受付では、新規の利用者はもちろん、リピーターに対しても、円滑な利用が出来るよう、施設概要の十分な説明を行った。特に県立美術館に関しては利用が見込まれる団体に対して貸出方法等について事前に説明会を開催し、混乱のないように努めた結果、トラブルもなく推移している。

○総合文化センターの利用にあたっては、必ず施設利用者、舞台技術スタッフ、財団職員の三者で打合せを行っており、催事の円滑な実施が図られた。このとき作成した利用計画表などの運営記録を保存しており、次回の催事をより充実したものにするための貴重なノウハウとなり、財団職員のスキルアップにもつながっている。

- 利用当日においては、巡回やモニターチェックにより、施設利用者が何を
しているか、何に困っているかを常に把握し、場合によっては直ちにフォ
ローすることで、気持ちよく施設を利用していただくことができました。
- 1階インフォメーションコーナーには財団職員が直営で、施設予約の受付、
友の会入会、チケット販売、駐車券販売等、ワンストップでお客様対応が
可能な総合窓口業務を実施した。特に、美術館企画展の前売りチケット販
売を行うことで両施設の連携に努めた。

b 臨時開館及び利用時間延長

- iichiko グランシアタをはじめ、各施設において、休館日での利用希望に応
じて臨時開館を行い（平成28年度実績：7件）、利用者のニーズに柔軟に
対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。
- 利用開始時間（9時）の事前延長、利用終了時間（22時）の事後延長を
合わせて48回受け入れ、深夜に及ぶ公演、早朝から準備が必要な大規模
大会等に対応し、施設利用者の利便性を一層高めた。

c お客様からの要望や意見等への対応

- より身近に利用者の声を受け入れる環境づくりを進め、集まった多くの意
見・要望に対し、できることはすぐに対応し、各関係機関と協議しながら
必要なものについては予算を確保したうえで実現に努めた。

d 職員研修の実施

- 「全国公立文化施設協議会業務マネジメントセミナー」では、当館が会場
館を務め、九州各地のホール担当者が参加し、研修を実施した。施設の円
滑な運営を行うためのノウハウを学び、今後は、施設利用者との打合せ等
でその成果を活かすことができる。

ウ 自主事業の実施

鑑賞系事業

- オーケストラ公演として、『九州交響楽団』の定期公演をそのまま大分に持
ち込んだ初めての企画。ドイツで定評のある指揮者との共演は、聴衆から
高い評価を得た。今後九州唯一のプロオーケストラとして定例化に向けて、
一層の入場者増に取り組みたい。
- 歌舞伎公演は、毎年根強い人気のある『松竹大歌舞伎』の昼夜2回公演。
実力のある出演者が、宙乗り、早変わりと見せ場の多い演目で、昼夜とも
ほぼ満席の状態であり、多くの観客から評判も高かった。
- 室内楽公演として、『サティをめぐる音楽と絵画』と題するピアノ公演は、
美術館との連携企画で、当時のパリのエスプリが感じられる内容と評価は
高かった。『ベートーベン 弦楽四重奏全曲演奏会第1夜』は、充実した演
奏内容に満足したとの感想を多くいただいた。ただ、室内楽公演は、内容
への評価は高いが、観客は幾分少なく啓発活動が必要と考える。
- オペラについては、『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『こうもり』『魔
笛』と計4本もの充実した公演となった。特に、共同制作オペラ『魔笛』

は、話題性もあり斬新な演出で入場者も多く評価も高かった。これには、「喫茶 魔法の笛」をはじめオペラ関連事業として啓発活動に工夫をしたことも大きく影響しており、今後も継続して取り組みたい。

- ワンコインリレーコンサートは、500円で1時間のコンサートという気軽さと、ピアノ・バンドネオン・ギター・ソプラノ・ハープとバラエティに富み、かつ充実した内容から、入場者も多く評価も高い。

人づくり事業

- 結成8年目を迎える「iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ」の活動としては、地元講師の指導に加えて、今年度は九州交響楽団員からのパート別指導に、更に指揮者の3回に及ぶ特別レッスンもあり、充実した練習指導環境となった。その成果は本番の演奏に現れており、「子どもたちの演奏とは思えない演奏」と関係者の評価も高かった。加えて、アウトリーチ活動としては、大分銀行主催のウエズディコンサートなどに出演したほか、管楽器パートが中学校の吹奏楽部に出向くなど活動の幅を広げた。県民がジュニアオケの活動を知るよい機会となっている。
- ミュージカル育成事業としては、7年目を迎えたミュージカル体験ワークショップを発展させ、新たなステージとして、生演奏にのって歌い踊るレビュー公演を本年度初めて企画した。公募による幅広い年代層の一般参加者約80人が、約7か月間、熱心に稽古を積み重ねた。観客からは、「一生懸命になるっていいですね。元気をもらいました。」といった賞賛の声が聞かれ、終演後まで惜しみない拍手が送られた。出演者も観客も大きな感動に包まれた公演であり、評価は高い。

普及系事業

- 「歌舞伎レクチャー」は、定評のある講師で2回の講座とも満員の盛況であった。また、アンケートでも非常に好評であった。これにより、新たなチケット購入も進み、販売促進にも功績があった。
- 「オペラレクチャー」として、『青島広志のおしゃべりオペラティックコンサート』を大分と中津で2公演実施し、本番のオペラ公演につながり、有効であった。本年度の新たな取組として、『喫茶 魔法の笛』を3回開催したところ、分かりやすい解説とコーヒー&ケーキを食べながらの気軽さから、回を追うごとに参加者も増え、好評であった。加えて、図書館講座「オペラを楽しもう」や「魔笛」映画鑑賞会を開催し、オペラに対する理解が進み、観客増につながったと考えられる。
- 本年度初めて実施した『アトリうむ遊園地』は、約2,000人の親子連れが集まり、大盛況であった。「ARTS（音楽と美術）が生み出すキッズパーク」をコンセプトに、美術館との連携も図れ、対象も学齢前児童から小学生低学年にしたことが有効で、多くの入場者を確保したことは、高く評価できる。

- 「舞台メイク・ワークショップ」も、本年度初めての事業であったが、歌舞伎編、宝塚編共に、定員以上の参加者が集まり、日頃は楽屋でしか見ることのない化粧を間近に体験できたと、非常に好評であった。女性の参加者がほとんどで、公演の裏方に光を与えた事業としても評価できる。後日、新聞に体験記が掲載され、話題にもなった。
- 「邦楽のススメ」は、日本舞踊を取り上げ、大分会場以外に、杵築会場と国東中学校会場で実施した。花柳基氏を中心に4人の舞踏家の演技は素晴らしく、丁寧な指導による体験も評価が高かった。地方での公演を取り入れたこと、また寒い時期であったにも関わらず、中学生が熱心に取り組んでくれたことは、大きな成果であった。
- アウトリーチ・コンサート『しあわせストーリー』は、本年度から本格的に活動を始めた事業で、地域の学校・施設等にアーティストを派遣して17回のコンサートを行った。クラシック音楽に触れる機会の少ない人に、クラシック音楽の楽しさや生の演奏の迫力を身近に味わってもらうように工夫してコンサートを組み立てており、受入れ側の評価は高い。また、若いアーティストにとっても、聴衆の側に立ってコンサートを見つめ直す機会となっており、地元アーティストの育成として有意義である。

8-2 美術館利用者アンケートに基づく課題分析の結果、業務改善の実施状況及び自己評価【美術館】

(1) 利用者アンケート調査の実施状況

①調査の概要

3月に施設利用者60団体を対象に利用満足度に関する、一斉アンケートを実施した。(49団体回答、回答率81.6%)

②結果分析

一斉アンケートの調査結果は以下のとおり。

ア 利用回数

- 開館後間もないことから初めての利用者が50%を越えているが、展示室を中心にリピーターによる利用も増加している。
- リピーターにはより使いやすく、新規利用者にはより分かりやすく利用していただけるよう努める。

イ 利用理由

- 「立地が良い」を選択した利用者が最も多く、「知名度が高い」、「施設・設備が充実」が続く。
- 開館直後のため、ハード面を理由とした回答が多いが、今後は「サービスが良い」などソフト面での回答が伸びていくよう、対応していく。

ウ 利用料金

- 「普通」が64.4%、「やや高い」が24.4%と大半を占める。
- 大分県立美術館を利用することで集客が増えたという意見も多く、利用料金は適当であると考えられる。

エ 職員の対応

- 「やや満足」以上が85.4%、「普通」も含めると97.9%と高い評価をいただいている。
- 「不満」の回答は無かったが、「やや不満」は1件あった。今後さらなる自己研鑽や研修によるスキルアップにより全ての方に満足いただける対応を目指す。

オ 利用申請手続き

- 「簡単」、「普通」で95.8%と高い数字になっている。
- 「面倒」とした回答は2件のみであったが、事務改善により可能な限りお客さま負担の軽減を図る。

カ 利用満足度

- 「大変満足」、「ほぼ満足」で80%を越え、多くの利用者に満足していただいているが、「不満足」の回答も4件あった。
- 「不満足」としている主な原因は、可動壁の使い勝手やバックヤードの狭さなど施設に対する意見であるが、きめ細かな対応で満足度100%を目指す。

キ 次回利用

- 「是非使いたい」と「使いたい」の回答が89.8%とほとんどのお客さまが次の利用を希望されている。今後も企画展と貸館の調整を上手に図り、利用しやすい美術館の運営に努める。

(2) 業務改善の実施状況

施設利用者や入場者からの意見、要望に対して、次のとおり業務改善を行った。

- 「コレクション展が開催されているかわかりにくい。」、「出入り口がわかりにくい。」、「トイレへの案内がわかりにくい。」など、誘導サインについての意見があり、案内板の増設、表示文字の拡大をはじめ、常に改善に取り組んだ。
- 受付、監視スタッフに対する苦情があったため、委託業者においてケーススタディを中心とした研修を定期的実施した。
- 可動壁の汚れについては、利用後に職員でパテ埋めをし、次の利用者に引き渡すなど、次の利用者に気持ちよく使っていただける環境づくりに努めた。
- 「ポストカードやグッズの種類が少ない。」と言うご意見に対し、新たにポストカードを15種類作成、グッズについても常にショップと協議しながら新商品を販売した。
- 館内の写真撮影ルールが、職員と監視等関係者で共有できていない部分があったため、全体で議論し、フロアごとの対応を明確化した。
- 「iichiko 総合文化センターで、もっと美術館の案内をした方が良いのではないか。」という意見に対し、ポスター掲示に加え、館内アナウンスの実施や

大型の案内板設置、レストランの運営案内など様々な形でPRに努めた。

- 「展示ケースに照明が反射し、見づらい。」という意見については、展示ごとに微調整しながら可能な限り反射を押さえるよう努めている。
- 開館2年目に入り、アトリウムを積極的に貸出した。パネル展などを中心に多くの利用をいただき、美術館の賑わいづくりの一助となった。

(3) 指定管理者としての全体的な自己評価

① 事業評価委員会の開催

3月3日(金)に美術館の企画内容について、有識者の意見をいただく事業評価委員会を開催した。自己点検評価表等により説明を行なった後、企画展や美術館運営、活動等に対する意見を求めた。

今後は評価委員会での意見も参考に、目標に向かって企画展を実施していく。
(委員の意見)

- シアター・イン・ミュージアムは何度見ても理解できなかった。
- 美術館の王道から少し外れているという印象。斬新だが素人にはわかりにくい。
- 目標に実績が届いてないことを、きちんと受け止めるべき。バランスが必要。
- 大分市美術館との連携も必要。
- ガラス水平折戸をもっと活用すべき。何のために造ったのかという声もある。
- 先鋭的、先端的な美術の状況を展示し、活発に活動することは素晴らしい。
- 努力することは大事だが、展覧会の目標が高く、背伸びし過ぎている印象。
- 稚拙でも学芸員が企画して、館とともに成長していく姿勢が大事。
- 先端的現代美術を見せていくには、戦略や方法論が必要であり課題。
- 教育普及は、美術館にどれだけメニューが用意できるかが大事。子ども達に身近な指導教員を招待して教育するのが一番よいのではないか。
- 美術館のカラーを出すことは必要であるが、一方でバランス感覚も必要。外部に対して、きちんと企画コンセプトを説明できるようにしておく必要がある。
- 常設展と特別展をうまくリンクさせていくことが必要。温故知新のように先人の偉大さを伝える取組などにより、美術館が伸びていく材料になるのではないか。
- ワークショップについては、美術館が発信する部分が強烈でお客様が受け止めきれないものがあるのではないか。ターゲットや想定リアクションをきちんと考えながら形成することが必要ではないか。

② 業務の取り組み内容に関する評価

ア 施設及び設備の維持管理及び修繕

- 常に職員が高い安全意識を持ち、県をはじめとした関係機関との連絡調整を徹底しながら管理・運営を行った。
- エレベーターなど専門性を有する設備等については、業者による点検を定期的に実施したほか、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立した。

○駐車場については、入出庫及び駐車が円滑に行なわれるよう管理体制を整備した結果大きなトラブルはなかった。

イ 施設の利用及び利用者の便宜共用

a 施設利用に係る申込受付等の対応

○施設利用の受付では、大部分の利用者が新規となるため、円滑に利用出来るよう、施設概要の十分な説明を行った。

○展示室の利用にあたっては、必ず事前に施設利用者と財団職員で打合せを行ない、催事の円滑な実施に努めた。打合せの際にはこれまで総合文化センターで実施してきた打合せ方法に準じて行なったことにより、スムーズな催事運営が可能となった。

b お客様からの要望や意見等への対応

○利用者の声を直接受け入れるため、美術館内に意見箱を設置した。提案されたご意見に対し、実現可能なものから改善に取り組んだ。

9-1 施設設備の維持管理状況【総合文化センター】

(1) 建築物及び建築設備の維持管理業務

① 日常の点検業務

適正な管理を実施するため、日常の点検に力を注いだ。特に各施設の使用後点検を中心に異常箇所の早期発見に努めることで、ホール客席の不具合や手摺のがたつき等施設・設備の異常に素早く対応し、次の施設利用者が安全に催事を実施できる環境を整えた。

② 長期改修計画の作成

当施設は開館後19年が経過し、小修繕の案件が増加するとともに、建物や機器については、今後、高額な改修費用が生じてくる。施設利用者に安全に施設を利用いただけるように、また、費用負担の大きい改修工事を計画的に実施できるように、県施設整備課と共同で長期改修を計画し実施している。28年度はiichikoグランシアタ舞台機構（吊り物ブレーキ装置）改修工事及び音響設備改修工事、高圧機器更新、インバーター機器更新、電話交換機更新を実施した。

③ 建築設備の維持管理業務

各建築設備においては4月1日付けで締結した委託業務契約に基づき、次のとおり定期点検等を実施し、正常な状態の維持管理に努めた。

・衛生設備

点検の結果、雑排水槽・汚水槽において故障や不具合はなかった。また、環境汚染等が発生しないよう、適正に点検、測定、調整を行った。

また、美術館の衛生設備と併せて契約を締結し、スケールメリットを活かした管理を行なった。

- ・昇降設備

エレベータ、エスカレーターについては、定期的に安全装置の調査を行ったほか、必要に応じて機能試験を行い、事故や不具合を未然に防いだ。

- ・電気設備

施設の各高圧受電室における接地抵抗測定、高圧絶縁抵抗測定、保護継電器試験、高圧ケーブル絶縁診断試験、受電設備盤内高圧機器点検及び清掃等を実施した。

- ・その他設備

ゴンドラ保守点検、通信弱電設備及び自動ドア保守点検、空気環境測定、飲料水水質検査について、施設の安全かつ快適な利用を維持するために点検業務を適正に行った。

(2) 舞台機構・音響設備・照明設備の維持管理業務

① 舞台機構

三精テクノロジーズ(株)九州営業所と締結した委託業務契約に基づき、各ホールの迫り、音響反射盤、バトン等の舞台機構については、毎月1回定期点検・調整を行い(9月、1月は電気制御装置保守点検をあわせて実施)、設備の初期性能を維持するとともに、障害を未然に防止した。

② 音響設備

ヤマハサウンドシステム(株)福岡営業所と締結した委託業務契約に基づき、以下の保守点検を6月と1月の年2回実施した。iichiko 音の泉ホールの備品に不具合箇所が増えていたため、県で実施する大規模改修で音響設備の改修を計画的に実施した。その他、軽微な修理等は委託先の負担により対応した。

- ・音響調整卓、効果卓
- ・電力増幅器
- ・各機器の接点及びスイッチ関係
- ・I T Vカメラ、モニターテレビ等I T V設備
- ・その他点検を必要とする音響機器

③ 照明設備

丸茂電気(株)福岡営業所と締結した委託業務契約に基づき、以下の保守点検を6月と12月の年2回実施した。軽微な修理等は委託先の負担により対応した。点検の中で催事に支障をきたすような異常はなかった。

- ・調光主幹盤に関する点検、調整、増す締め
- ・分岐盤に関する点検、調整、増す締め
- ・サイリスター調光器盤に関する点検、調整、増す締め、各負荷回路の絶縁抵抗試験、調光出力電圧測定
- ・照明操作卓に関する動作試験、各種波形測定、調整
- ・舞台袖操作盤、各動作点検、調整

- ・ 舞台照明機器類及びボーダーケーブルの点検、整備

(3) 備品等の維持管理業務

- 舞台、練習室、楽屋、会議室、県民ギャラリー等の備品については、施設の運営に支障をきたさないよう、適正な管理を行った。
- 利用頻度が高く公演の出来を左右するホール貸出用ピアノについては鍵盤、ハンマー、ペダル、整音等の保守点検を実施することで高い水準を保持した。
- 貸出施設の備品において劣化の見られるものについては、新規で購入し気持ちよく利用していただける環境を整えた。
- その他の備品管理についても、固定資産台帳及び備品台帳を設け、定期点検による管理を行うことで良好な状態で効率的に使用できるよう適切な管理を行った。

(4) 植栽等の維持管理業務

- 大分市シルバー人材センターと締結した委託業務契約に基づき、ホールや iichiko アトリウムプラザに配置された39本の自然木を当施設の愛称であるオアシスにふさわしい環境づくりのもと、灌水、施肥、剪定、枯葉撤去等を定期的に行った。
- 美術館の植栽管理業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(5) 清掃業務

- 第一ビル管理（株）と締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行い、快適な空間を提供することができた。
 - ・ 日常清掃（日又は週を単位として定期的実施）
 - ・ 定期清掃（月を単位として定期的実施）
 - ・ 使用後清掃（ホール等使用後に実施）
 - ・ 特別清掃（6か月を単位として定期的実施）
 - ・ 廃棄物処理（1日1回実施。ただし休館日、土・日・祝日を除く）
 - ・ 害虫駆除（6か月に1回実施）
- 美術館の清掃業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(6) 保安警備業務

- （株）NIKKOと締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行い、施設内の秩序を維持し、事故や犯罪、災害から来館者の安全を確保した。
 - ・ インフォメーション業務
 - ・ 楽屋口警備業務（大ホール、中ホール）
 - ・ 駐車場警備業務
- 美術館の駐車場警備業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。
- 複合施設の統括管理者である（株）エフ・ティー・シー大分と密接な連携を図り、

iichiko アトリウムプラザなどに配置された警備員や防災センターを中心とした保安体制を取った。

(7) 施設及び設備の軽微な修繕

- 職員による日常点検のほか、防災センター、舞台スタッフ等と連携して、軽微な修繕が必要な箇所についても直ちに発見できるように努めた。
- 現場で対応が可能な修繕については専門技術スタッフを擁する防災センターに依頼し、それ以外の修繕については、直接業者に早急な対応を依頼した。

9-2 施設設備の維持管理状況【県立美術館】

(1) 建築物及び建築設備の維持管理業務

① 日常の点検業務

美術館の各施設・設備については、設備保守の契約を締結した合同産業（株）と連携し的確な点検により適正な管理を行えるよう、日々の工夫を重ね、確認された初期不良については速やかに県に報告し、協議を行なった。

② 建築設備の維持管理業務

各建築設備においては4月1日付けで締結した委託業務契約に基づき、次のとおり定期点検等を実施し、正常な状態の維持管理に努めた。

・衛生設備

点検の結果、汚水槽、雑用水槽において故障や不具合はなかった。また、環境汚染等が発生しないよう、適正に点検、測定を行なった。業務については iichiko 総合文化センターの衛生設備と併せて契約を締結し、スケールメリットを活かした管理を行なった。

・昇降設備

エレベーター、エスカレーターについては、定期的に安全装置の調査を行なったほか、必要に応じて機能試験を行ない、事故や不具合を未然に防いだ。

・その他設備

通信弱電設備及び自動ドア保守点検、空気環境測定、飲料水水質検査について施設の安全かつ快適な利用を維持するために点検業務を適正に行なった。

また、ガラス水平折戸や展示室可動壁など美術館特有の設備については、利用前に設置業者に立会ってもらい安全を確認して動作するなど、リスクを想定しながら運用した。

(2) 備品等の維持管理業務

- 各備品については施設の運営に支障をきたさないよう、適切な管理を行なった。
- 不具合が生じた備品については、県及び美術館設計事務所と連絡を取りながら改修を加えるなど、お客さまが安全に利用していただける環境を創出した。

(3) 植栽等の維持管理業務

○総合文化センターの植栽管理業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(4) 清掃業務

○第一ビル管理（株）と締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行った。

- ・ 日常清掃（日又は週を単位として定期的に実施）
- ・ 定期清掃（月を単位として定期的に実施）
- ・ 使用後清掃（展示室等使用後に実施）
- ・ 特別清掃（6か月を単位として定期的に実施）
- ・ 廃棄物処理（1日1回実施）

○総合文化センターの清掃業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(5) 保安警備業務

○美術館内の警備業務については、日本連合警備（株）と締結した委託業務契約に

基づき業務を行い、施設内の秩序を維持し、安全の確保に努めた。

○駐車場等外構警備については、(株)NIKKOと締結した委託業務契約に基づき業務を行なった。総合文化センターの駐車場警備業務と併せて契約を締結し、満車時の他施設への誘導などを徹底して行なうなど一体管理のスケールメリットを活かした管理を行なった。

(6) I P M（総合的病害虫管理）管理業務

○文化財保護の観点から、美術館特有の業務としてI P M管理業務があるが、イカリ消毒(株)と締結した委託業務契約に基づき業務を行なった。業者と財団スタッフによる定期的なモニタリング報告会に加え、警備・清掃・カフェ・ショップ、サポータースタッフなど、関係者が参加しての講習会を開催するなど、全館体制でI P M業務に取り組んだ。

(7) 施設及び設備の軽微な修繕

○職員による日常点検ほか、設備委託業者等と連携して軽微な修繕が必要な箇所についても直ちに発見が出来るように努めた。

○開館後間もないため、多くの初期不具合が見られたが、県・美術館設計事務所・業者等と密に連絡をとり、スムーズに改修を行なった。

○引渡しから2年が経過し、県・美術館設計事務所・業者による瑕疵責任調査とそれに基づく修繕業務を行なった。その後も継続して修繕箇所の調査や情報提供を実施した。